

教育振興基本計画推進会議の今後の在り方について

1. より効果的な会議とするための論点

- (1) 各委員の専門的な識見をさらに効果的に活用するため、単にご意見をいただくのみならず、一定の時間を設けてお話をいただいております。
- (2) 個別の事業をベースにした平面的な運営に終始するのではなく、部署横断的な議論や、メリハリのある議論を行える会議とすべきではないか。
- (3) 会議の各回の趣旨を明確化するとともに、開催前に資料を委員に確認いただく期間を十分設定することなど、会議の効率化を図るべきではないか。

2. 具体的な工夫（案）

- (1) 委員による話題提供や説明の機会を設定
 - ・ 各委員の専門分野等から、施策上の新たな視点や示唆をいただくため、各会議ごとに、各委員の意向を踏まえて話題提供等の時間を設定
- (2) テーマ志向の議論となるよう会議運営を改善
 - ・ 法定要件を満たすため、教育委員会における取組の点検・評価をいただく必要があるが、事務局からの説明項目は厳に精査し、会議進行を円滑化
 - ・ 議論の焦点化・活性化のため、各回ごとに特に集中的にご意見をいただきたいテーマ（協議の視点）を設定
- (3) 会議運営方法の効率化
 - ・ 原則として、春の会議では前年度の取組の点検・評価を、秋の会議では今年度の状況を踏まえつつ次年度以後の方向性の議論をいただくよう議事を設定
 - ・ 資料確認の負担軽減、議論の焦点化のため、資料のスリム化を図り、会議開催日までに余裕をもって各委員に事前送付